

八月 御教え

今も昔も、これから何万年たっても、世の中は変わりはない。同じことである。人もきれなければ、食べ物もきれることがない。次々に種が生えて続いてゆく。

……「天地は語る」第十九条……

解説

私達人間は、今日なお自然災害の猛威の前には、その無力さを痛感せざるを得ません。

しかも二百年も前の教祖様の時代においては、その被害は想像を絶する悲惨さであった事でしょう。当時は天保の大飢饉、そして安政の大地震と次々に大災害に襲われ、加えて幕末の不穏な政情による社会の混乱に、人々は前途に希望を持たず、言い知れぬ不安を抱えていました。

そのような不安を抱えて参拝した方々に対して教祖様は『この天地宇宙を司る天地の親神様はこれから先、如何なることがあっても、私達人間を見守り続け、絶える事なく遍く天地のお恵みをお与え下さり、子孫は続いて行くのであるから、神様に一心に縋り精進して行けば心配はない。必ず御蔭を頂ける。』と、力強く御教え下さったのが、この御理解であります。